

## 新型コロナ院内感染の影響と当周産期センターの取組み



産婦人科 部長  
周産期センター センター長  
田村 みどり

当院産婦人科は、横浜市大市民総合医療センターと神奈川県立こども医療センターと並んで横浜市の基幹施設です。年間約80例の母体搬送を受け入れてきました。現在、母体搬送の受け入れは妊娠26週からとされていますが、新生児科は超低出生体重児を含むハイリスク児に対応可能であり、昨年は300g台の24週出生の新生児2名が良好な状態で救命されています。小児外科は、新生児も含め小児内視鏡手術を多数手がけています。産婦人科医師は、本院から派遣の若手が主で、部長を含め総勢7人と多くない人数ながら、専門に係らず全員が担当医となって周産期・婦人科救急に携わっています。日本産科婦人科内視鏡学会認定施設として腹腔鏡・子宮鏡手術も行っています。悪性腫瘍は専門施設に紹介することもあります。集学的治療を要しない例の手術もしています。さらに、幅広い内科疾患合併妊娠の管理が出来ること、腸管の高度な癒着剥離等を必要とする婦人科腹腔鏡手術では、消化管の内視鏡手術を得意とする外科の協力を得られること等、大学病院ならではの強みも持っています。

地域に根付く病院であった当院ですが、4月から5月にかけて新型コロナウイルスの院内感染が起きてしまいました。患者さま、職員とも周産期センターには陽性者は出なかったのですが、病院全体の状況から判断して分娩取り扱いを3週

間中止し、母体搬送受け入れも7週間停止することとなりました。院内感染も5月中旬には収束し、分娩は6月から、母体搬送も7月から受け入れを再開していますが、いまだに分娩、手術件数の減少が続いています。

業務再開を機に、患者支援センター職員とともに地域の連携施設10軒を回りました。当院の外来が混んでいること、土曜日が隔週休みで妊婦健診をやっていないこと等の欠点を補うためにも、他院に健診をお願いし当院で分娩する「セミオープンシステム」管理を行っており、さらに協力施設を拡充したいと思っています。

また、院内全体の入院時新型コロナウイルス検査ルールに従って、妊婦さんの入院時にもPCRないし抗原検査を行っており、分娩や母体搬送は時間外に入院してくることも多く、当直帯での緊急対応が必要です。検査結果が出るまで疑似症対応に必要があり、防護用具の不足や隔離の手間など様々な困難を抱えています。分娩室内を区切って待機スペースを作るなどして対応し、院内感染防止に努めています。

当院は新型コロナウイルス陽性分娩の対応は施設の構造上困難なため、妊娠37週付近に一度外来で妊婦さんにPCR検査を行っています。政府の第二次補正予算で新型コロナウイルス感染の不安をもつ満期妊婦のPCR検査に助成金が出ることとなり、横浜市では住民及び帰省等で一時居住のかたは同意があればほぼカバーされるので、当院および市内の他の施設に通院する無症状の希望者のPCR検査受託施設となっております。

年々分娩数が減少している時代に、新型コロナウイルス禍で全国医療機関の収益が悪化しています。密着や密接を避ける感染対策はしつつ、地域や連携施設とはより「密」な関係を持ち続けたいと思っています。



### 巻頭言

## 病院長就任のご挨拶 -西部病院の現状を含めて-



聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院  
病院長 國場 幸均

平成24年に西部病院消化器・一般外科へ赴任し、平成26年からは副院長を、そしてこのたび4月1日付で病院長の職を拝命いたしました。当院が、横浜市地域中核病院、地域支援病院としてここまで着実に歩を進めることができたのも、皆様方のご理解とご協力の賜物と心より感謝申し上げます。就任初日より新型コロナウイルスへの対策に追われ、皆様へのご挨拶が遅れ申し訳ございませんでした。この未曾有の事態に対し、医療人としての自覚と誇りをもって病院業務を遂行している職員の姿に励まされ、日々の業務を遂行しています。この度の新型コロナウイルスへの対応には各医療機関の皆様は、診療制限を強いられ心労をはじめ大変な日々をお過ごしのことと拝察申し上げます。皆で協力してこの難関を克服していければと思います。

当院は皆様ご存じの如く、4月に発覚した院内感染において大幅な診療制限を強いられました。現在、嚴重に感染対策を行うと同時に、稼働の回復に職員一丸となり日々奮闘しております。この度の院内感染が発生した原因の究明と再発予防のため、院内感染調査委員会を開いて調査・検討し報告書を作成いたしました。報告書の『院内感染の経験から他院あるいは社会と共有できる今後への備え』の項を紹介させていただきます。

.....◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆.....

第一はどの患者、どの職員も新型コロナウイルスに感染している可能性があるとの前提に立って対処することである。標準予防策を徹底するとともに、エアロゾルが大量に発生する処置の際には医療者が標準的にN95マスクを装着し、ゴーグルなどで目の粘膜を防護し、換気に配慮するといった対策を講じることが必要となる。新型コロナウイルスのもう一つの主要な感染経路は接触感染であることから、接触感染を防ぐための手指衛生は最も重要である。しかし、WHOは新型コロナウイルス感染症が発生する前の医療者の平均的な手指衛生遵守率は40%と報告している。その実施率が100%になることは難しく西部病院の手指衛生遵守率も国内外の多くの施設と同様に十分と言えるものではなかったが、改めて手指衛生を含めた院内感染予防策の遵守を全職員に徹底する必要がある。

第二は西部病院が感染症指定医療機関でないために重症を含む多数の新型コロナウイルス感染者を受け入れるための設備を含めた機能が十分ではなかったことである。今後、感染者の受入や疑似症患者の診療を行うにあたっては、病棟のゾーニングや陰圧室などの整備とともに、ウイルス検査体制の整備、個人防護具の十分な備蓄が必要である。

第三は院内の情報伝達機能に課題があったことである。新型コロナウイルス感染が市中で急速に拡大する中で、この未知のウイルスに関する多くの情報が配信された。それらの情報を分かりやすく容易な方法で全職員に正確に伝える機能と、全職員が配信された情報を確認する習慣が不足していたと考えられる。4月下旬から5月上旬の期間は、情報が錯綜し多くの職員が混乱していたと思われる。今回の院内感染を契機に、院内情報伝達機能は格段に改善し全職員が情報を得やすくなった。さらに、患者・家族からも指摘があったように、患者・家族や地域住民、近隣医療機関に対しても情報伝達を迅速かつ正確に行うことも検討しなければならない。

最後に、今回の院内感染を振り返り反省することで、二度と大規模な院内感染を起こさないための取り組みを継続して行い、安全で安心な医療を行える医療機関として地域医療に貢献することを全職員に要請して調査報告書とする。

.....◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆.....

皆様の少しでもお役に立てれば幸いです。今後も地域医療の第一線であるかかりつけ医、医療機関とのネットワーク構築の充実とは言うまでもありません。その構築により継続性のある適切な医療を提供できるように、地域医療全体の向上と充実を支援して参ります。そのためには、皆様方のご協力が必要ですので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

# 異動者紹介

順不同

新しく着任した医師をご紹介します。  
地域の先生方と地域医療連携を推進して参りますので、よろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。



血液内科  
小杉 成樹  
(医長)



リウマチ・膠原病内科  
川上 美里  
(医長)



リウマチ・膠原病内科  
飯田 春信  
(医長)



腎臓・高血圧内科  
町田 慎治  
(医長)



腎臓・高血圧内科  
池田 麻理  
(医員)



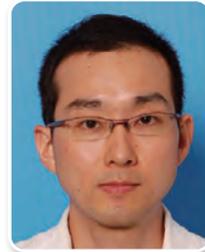
呼吸器内科  
大山 バク  
(医長)



呼吸器内科  
上野 純子  
(医員)



代謝・内分泌内科  
常見 真吾  
(医員)



消化器・肝臓内科  
松尾 康正  
(医長)



消化器・肝臓内科  
五十嵐 洋介  
(医長)



消化器・肝臓内科  
薩田 洋輔  
(医員)



循環器内科  
高野 誠  
(医長)



循環器内科  
中西 亨  
(医員)



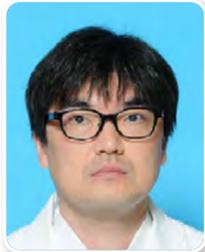
循環器内科  
野田 和里  
(医員)



脳神経内科  
鹿島 悟  
(医長)



脳神経内科  
貫井 咲希  
(医長)



神経精神科  
伊東 孝滋  
(医員)



小児科  
森 美佳  
(医長)



小児科  
森内 巧  
(医長)



小児科  
後藤 海人  
(医員)



消化器・一般外科  
勝又 健太  
(医長)



小児外科  
川口 皓平  
(医長)



整形外科  
浅野 孝太  
(医長)



整形外科  
小谷 貴史  
(医長)



整形外科  
鈴木 開  
(医員)



整形外科  
竹本 昌紘  
(医員)



形成外科  
浅井 凜太郎  
(医員)



皮膚科  
小野田 慶子  
(医員)



皮膚科  
小牧 玲雄  
(医員)



泌尿器科  
関口 善吉  
(主任医長)



産婦人科  
細沼 信示  
(主任医長)



産婦人科  
岩端 由里子  
(医員)



産婦人科  
佐々木 貴充  
(医員)



産婦人科  
原田 賢  
(医員)



眼科  
寺本 謙典  
(医員)



耳鼻咽喉科  
岩武 桜子  
(医員)



耳鼻咽喉科  
荒井 光太郎  
(医員)



放射線科  
藤塚 進司  
(医長)



放射線科  
田川 寛子  
(医員)



麻酔科  
森田 さおり  
(主任医長)



麻酔科  
佐藤 未祐奈  
(医員)



救命救急センター  
佐藤 健太郎  
(医員)



救命救急センター  
森内 麻美  
(医員)



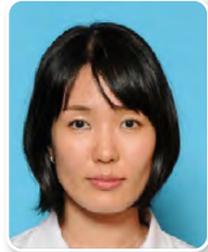
救命救急センター  
大木 初里  
(医員)



救命救急センター  
堀川 武宏  
(医員)



救命救急センター  
仁科 浩和  
(医員)



周産期センター  
廣瀬 あかね  
(主任医長)



周産期センター  
今泉 太一  
(医長)



周産期センター  
中野 茉莉恵  
(医員)



周産期センター  
大串 健一郎  
(医員)



周産期センター  
小澤 南  
(医員)

